

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム とうごう苑

作成日 平成 29年 2月 20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	27	○個別の記録と実戦への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護記録の見直しに活かしている。 『ケース記録から、入居者の状況が把握できない。』	入居者の行動やげ言動の些細な事でも記入する事で、思いや望んでいる事を汲み取り、職員同士共有、支援できるようにする。	ケース記録記入の仕方を職員同士で検討する。細かく記録することで、ケース記録を支援に活かせるようにする。 (勉強会を開催する)	一年間
2	23	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らしの希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本意に検討している。 『日常において、一人ひとりにコミュニケーションを取る事もなかなか難しく、入居者様もストレスを感じている。』	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向を把握する。	スタッフ会議後、担当者会議を行い、入居者様個別にレクリエーションやコミュニケーションについて話し合い、具体的に計画する。	月一回
3	48	○役割、楽しみ事の支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活用した役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換の支援をしている。 『毎日レクリエーションをしているが、一人ひとりにあったレクリエーションではない。』	一人ひとりの能力を活かせるよう、できる事や好みを把握し、個別のレクリエーションを実施し、孤独感を感じないように過ごしてもらおう。	担当者会議で計画した個別レクリエーションやコミュニケーションを実施する。経過をモニタリングし、次回のケアプランに反映する。 (外出の機会を増やす。自宅周辺、墓参り)	一年間
4	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域と繋がりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。 『地域に浸透してきはいるが、いつでも地域の方々が遊びに来てくれる雰囲気ではない。』	地域の小、中学生、子ども会などと交流して、福祉の仕事を理解してもらい、グループホームをより身近なものに感じてもらう。また、地域のサロン参加の高齢者やボランティアの方々にグループホームに来ていただき、地域の方とグループホームスタッフと協力しながら、交流する。	夏祭りなどの苑内行事のボランティアをお願いする。長期休みを利用し、子供達と一緒に活動する。地域のサロンをグループホームで開催する。	長期休み 司野ゆったり会 南瀬かたいもん そ会
5	19	○本にと共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。 『ご家族とのコミュニケーション不足を感じる』	事業所側から、ご家族へ常に情報を発信し、入居者様の体調や状態を、把握していただく。また、苑便りを活用し、行事への参加、同行をお願いして、共に支えていく関係を築く。	面会時やモニタリング表送付で、入居者様の状況をご家族へお知らせする。苑便り送付で、行事の連絡をし、参加や同行をお願いする。	一年間